

コムギ赤かび病の防除を徹底しましょう！

松本農業改良普及センター
J A ○ ○ ○ ○

赤かび病菌は、小麦、大麦、トウモロコシなど多くのイネ科の穀物に感染します。麦類ではおもに5月中下旬の開花期に感染し、屑粒が多発して収量が減少するほか、かび毒の一種、デオキシニバレノール（DON）等を生成することが知られています。

このため、検査規格の中に赤かび粒の混入許容値が定められており、本病が発生すると、販売や流通の大きな障害となります。

【発生しやすい条件】

★出穂前後から乳熟期にかけて曇天・小雨が続き、温度が高い場合に多発します。

開花期の降雨・気温（25℃程度）で感染の危険性大。

★過剰な窒素追肥を行うと遅発分げつが有効化し、開花が長引くため、感染期間が長期化します。（長期間の防除が必要となります）

★倒伏、凍霜害による不稔の発生は感染を助長します。

「平成23年度の多発」

春先からの低温により出穂・開花期が平年より5～7日遅れたため、感染時期が6月上旬までずれ込みました。

その後、5月下旬の入梅直前から6月初旬にかけて広い範囲で降雨があり、比較的気温が高めだったことから広範囲で感染し、さらに6月中・下旬の連続した降雨で被害が拡大し、県下全域で多発となりました。



赤丸内（褐変している部位）
が赤かび病感染部位

【薬剤防除のポイント】

★出穂期に降雨が続く場合は防除を徹底します。

＜防除時期：小麦の開花期（出穂期後7～10日頃）＞

★降雨等天候不順がさらに続く場合は追加防除が必要です。

＜追加防除：1回目防除の10～14日後＞

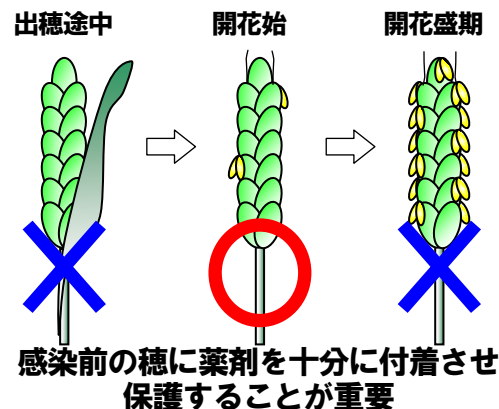
注）使用農薬についてはJA、農業改良普及センターにお問い合わせください。また、農薬を使用する際は、農薬使用基準を確認の上、適正に使用してください。

【収穫・調整時の注意事項】

★赤かび病が発生したほ場では、刈分けを行い、健全な麦に混入させないようにしましょう。

★収穫後、高水分のまま放置すると貯蔵中に赤かび病菌が増殖します。収穫したら速やかに乾燥作業に移行してください。

○1回目の薬剤散布時期



【収穫の前に】

- ★ 天候等の状況から、赤かび病の発生が懸念される場合は、黄熟期前にはほ場を見回り、発生の有無を確認しましょう。
- ★ 赤かび病の疑いがある場合、または赤かび病の感染を確認したら、JA、または農業改良普及センターに連絡し、必ず事後対策を実施しましょう。

【参考】 長野県におけるコムギ赤かび病の発生面積の推移 (農作物病害虫発生予察事業年報より)

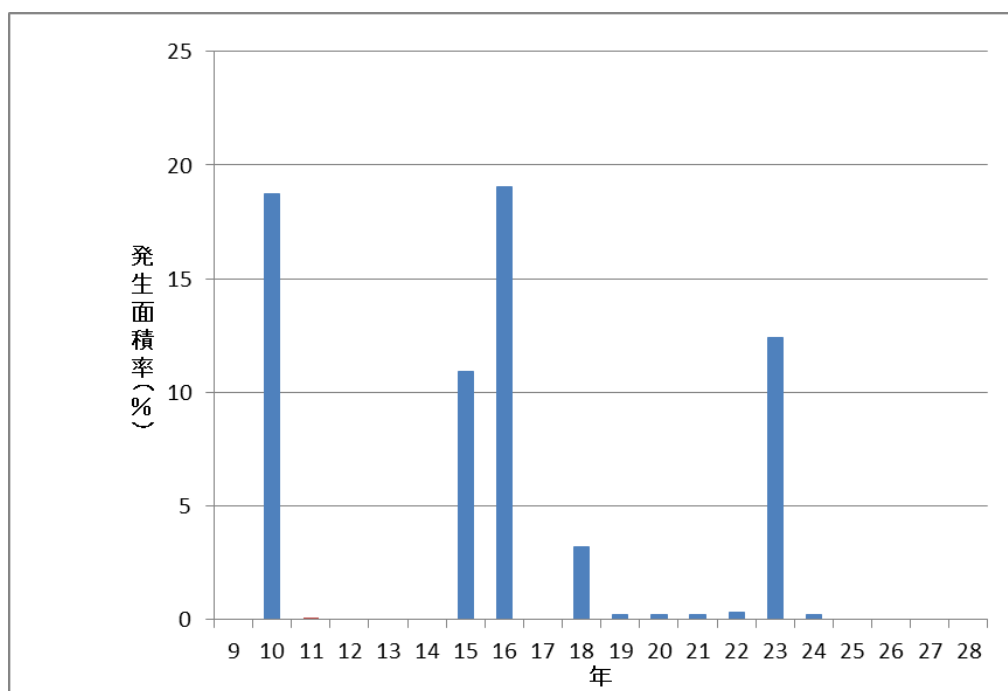


図 麦類赤かび病の発生面積率

詳しくは、最寄りのJAまたは、農業改良普及センターへお問い合わせください。